



小田原市立芦子小学校学校だより

あしこだより

令和8年度9月号
発行者:石井 美佐子



進んで考え学ぼうとする子・仲間と関わる子・たくましくチャレンジする子

昨年、一昨年と夏休み明けの9月は残暑が厳しく、熱中症対策が必要でしたが、今年度は雨が続き、涼しい日が多いです。長雨や集中して発生する豪雨は、全国各地の豪雨災害、農作物への影響など、私達の生活に大きな影を落としています。被災をされた皆様には心よりお見舞い申し上げます。9月14日は、本当に久しぶりに太陽が顔を出しました。このチャンスを逃すまいと校庭に出てくる子がたくさんいました。ほどほどの暑さで、からっと爽やかな秋晴れの日を待ち望む今日この頃です。



晴れた日の中休み。1年生が熱心に朝顔を見えています。

「時を守り、場を清め、礼を正す」～小さなことを丁寧に～

社会人となって数十年たちますが、その時その時の先輩や上司から教わった言葉の中で、特に記憶に残っているのは「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉です。教育者で哲学者の森信三先生の言葉ですが、職場や学校などの組織を立て直すための3つの原則と言われています。この3つについては、組織論としてだけでなく、教育の考え方においても大切だと思っています。今も昔も大切なことはそうは変わらないと思っています。ご承知の方も多いと思いますが、3つの言葉には次のような意味があります。

「時を守る」とは、文字通り時間を守ることです。時間を守ることは、相手の時間を大切にすることで、相手を尊重するということです。その積み重ねが、信用・信頼につながります。

「場を清め」とは、掃除、整理、整頓をすることです。その意味は5つの「K」で表されています。「気づく人になれる、心を磨く、謙虚になれる、感動の心を育む、感謝の心が芽生える」ということです。

「礼を正す」とは、挨拶や返事をするということです。挨拶は相手に心を開くということで、人間関係を築く基本です。そして気持ちのよい返事も人間関係を良好にするために必要なものです。

さて、先日あるクラスの学級だよりに、次のような文章を見つけました。

教室のベランダにあった鳥の糞の話です。朝、教室に入ってきた子を見つけ「また、鳥の糞が落ちています。」と教えてくれました。なかなかベランダの手すりについている鳥の糞に気づくことは難しいです。ですから「教室の細かいところまでよく見ている。」とほめました。こういった細かいところに気づく目は、異常を早く発見し、大きな事件や事故を防ぐことにつながります。いじめ防止にもつながる気づき、という話もしました。

小さな鳥の糞だと思われませんが、この学級では、ベランダについた鳥の糞のような汚れたところや、あるいは教室の散らかっているところなどをそのままにしない、という雰囲気（学級の風土）があるのかと考えます。「場を清め」に通じるものです。教室にゴミが落ちている、掲示物が破れている、荷物が乱雑に置かれているという環境は、集団としての規範意識の低下を招き、学級の「荒れ」にもつながっていきます。「場を清める」ことは、問題行動の未然防止につながると言えます。

私自身も組織で働く者として、子ども達の教育に携わるものとして、何より大人として「時を守り、場を清め、礼を正す」といった日常の小さなことを丁寧にやっていきたいと思っています。

小田原市 PTA 研究集会に参加して～防災について改めて思う～

9月5日（土）に、生涯学習センターけやきで開催された小田原市 PTA 研究集会に参加しました。今年度は、石川県の輪島市の小川正教育長から、令和6年能登半島地震・奥能登豪雨災害という2度の大規模災害を経験してお話を伺いました。改めて防災について考える機会になりました。印象的だったお話を皆様にも紹介させていただきます。（取りまとめた形で失礼します）

- ・発災直後は、道路が寸断され、車を含めた移動がとにかく困難だった。対応にあたる市の職員（学校の職員も含め）の38.7%しか参集できなかった。「公助」が機能するまで1週間かかった。行政のある職員さんは、自宅で被災し、妻さんと娘さんが亡くなり、息子さんが怪我をした。その息子さんを病院につれていってから、役所に向かった。それほどの状況だった。行政の職員も被災者であることを理解してほしい。
- ・1万8千人いる市民のうち、1万3千人が避難所に避難した。それほどの人数が避難するという想定がなかった。
- ・避難所は学校再開が大前提。しかし、学校再開に向けて、避難所利用者に移動をお願いしても、なかなか理解してもらえなかったこともあった。
- ・避難所のルールや避難場所の配置計画などを、住民の皆が知っていることが大切。そして避難所利用者は避難所の運営者でもあるということを理解してほしい。
- ・児童生徒には「率先避難者たれ」と伝えている。保護者の方には「わが子は一人でも必ず避難する。逃げ切ることができる。」と自信をもっていえるように、日頃から子ども達に「まず、自分から逃げなさい。私（親）も、避難する。避難した後は必ずあなたを迎えに行って、必ず抱きしめるから。だから必ず逃げなさい。」と繰り返し伝えてほしい。

講演の中で特に「自分の命、自分の大切な命を他人任せにしていいいのですか？」という言葉が心に残りました。「『〇〇からの指示や案内がなかったから、避難しなかった／〇〇しなかった』それでいいのですか？」とも仰っていました。防災については誰もが自分事として捉えなくてはならないと改めて思いました。学校では、火事や大規模な地震、不審者の侵入に備えた避難訓練を年間をととして実施していますが、どの場合においても、最善の行動について自分で考えられるようになることが大切だと伝えていきます。これからの時代を生きる子ども達には、防災に関する知識や実践力も大切な「生きる力」となります。

さて、大規模災害が発生して児童を引き渡す場合において、もし保護者の方等に引き渡しができない状況となったとき、学校は引き渡しが可能となるまで、校内で児童を保護します。能登市の小川教育長が仰っていたように、交通の状況や保護者の方の被災の状況等によっては、引き渡しまで長時間かかることも想定されます。学校としましては、その際に必要な水や食料を校内に備蓄したいと考え、これまでも学校だよりでお伝えしてきましたが、ここで校内での検討がまとまり、保護者の皆様にもお伝えできる段階となりました。時間がかかりご心配をおかけしました。



防災について学習している4年生に防災バッグを持ってもらいました。

詳細は後日改めてお知らせしますが、保管用バッグを校内で統一し、その中に保管できる容量の食料・飲用水等をご家庭でご用意いただく考えです。食べられる物、食べる量などは児童一人ひとり違います。この機会にご家庭でご相談いただければ幸いです。防災備蓄品については、学級懇談会でも説明させていただきますが、保護者の皆様のご意見を伺いながら、よりよいあり方について改善を図ってまいります。ご理解・ご協力くださるようお願いいたします。